



# 「こんにちは 市長です」

## 4月1日号

「市長、子どもたちにマスクを寄付したいのだけど」と去年10月にF社の社長さんから話があった。冬を迎えるこの季節はインフルエンザがはやる。それはありがたいと心から思った。45万枚、幼稚園や保育園に配った。年が明けて、中国武漢で発症した新型コロナウイルスが報道され始めた。「コロナってなんだ」そう思った。感染力が強く、とはいえ今のような世界的にまん延するとは思ってもいなかった。マスクが脚光を浴び、アルコール消毒薬までもが欠品するとは…。2月に入って交流のある上海市嘉定区から「マスクがあったら送ってほしい」という一報が入った。甘えてF社にそのことを伝えた。子ども用、女性用の在庫から10万枚確保できるという返事、市の在庫1万枚を加えて2月12日に空輸した。そのことを嘉定区が上海市のテレビなどで報道してくれた。

3月に入り上海市の新型コロナは沈静化したようだ。同時期、市内に住む保育士の感染が確認されたのである。同居のご家族も陽性の検査結果が出た。そのことを嘉定区が知り、「マスク13万枚を送る」という申し出があった。マスクがどこにも無いと大騒ぎしているさなかである。それだけではない。中国人のSさんが「マスク2万枚を寄付する」、彼女の友人Cさんが「医療用のマスク2500枚を送る」、深しんせん 圳の企業から「アルコール消毒薬2万本を送る」という知らせ。ほんとにうれしかった。

医師会、歯科医師会、薬剤師会、保育所、幼稚園、学童、プラッツそして学校の先生、食品衛生関連、高齢者施設などへの配布を決めた。

F社や嘉定区、Sさんなど多くの方々のご厚意を強く感じた。小学校の卒業式では子どもたち、保護者全員にマスク着用させることができた。小学校と中学校の入学式でも用意する。あとはこれ以上のコロナ感染のないこと、感染された方たちの回復をお祈りしたい。